

看護学専門（地域看護学）

- I 日々の暮らしや地域のありようが人々の健康に及ぼす影響について、具体的な例を挙げて説明し、健康問題解決のための看護職の役割について、一次・二次・三次予防の観点から説明しなさい。

【出題の意図】

地域看護活動においては、看護の対象を生活者としてとらえなおし、健康問題と日々の生活状況との関連や、対象を取り巻く社会資源などの環境と生活、健康問題との関連を理解した上で必要な看護活動を実践することが重要である。また、看護実践においては、既に疾病に罹患した人への重症化予防(三次予防)の支援だけでなく、健康増進(一次予防)、早期発見・早期対応(二次予防)の観点からの取り組みも重要となる。以上の点についての理解力と論理的な思考力・説明力を問うものである。

【解答例】

地域で暮らす人々を支援する場合、対象を生活者としてとらえなおすことが重要である。暮らし方や生活習慣は日々の積み重ねであり、健康に好ましくない暮らし方を長期間続ければ健康へ悪影響が及ぼされる。また、人々の生活や健康を決定する要因は、遺伝子や健康行動だけでなく、その人の社会経済的な地位をはじめとする社会的要因によって決定され、人々の生活と健康のありようが形成される。地域診断において活用されるコミュニティ・アズ・パートナーモデルでは、その地域に暮らす人々の状態をコアシステムとし、人々を取り巻く社会的要因を物理的環境、教育、安全と交通、政治と行政、保健・医療と社会福祉、情報、経済、レクリエーションの8つのサブシステムとして位置づけ、これら进行评估することで、地域の持つ健康問題や課題、それらを生じさせている要因などを把握し、解決方法を検討する。例えば、徘徊のある認知症高齢者が在宅療養する場合、地域の見守りや緊急通報システムなどの福祉サービスが機能していれば、たとえ徘徊があってもその人らしい在宅生活を継続することは可能だが、人々のつながりが薄く保健・福祉サービスが行き届かない地域であれば、徘徊のある認知症高齢者が在宅生活を継続するのは困難となり、認知症の諸症状の悪化にもつながる。よって、看護実践においては、徘徊のある認知症高齢者とその家族への直接的な支援だけでなく、彼らを取り巻く環境（社会的要因）に働きかけることで問題の発生を予防することや、たとえ問題が起きても早期に発見し対処するといった予防の視点で活動することが重要となる。

- II 以下の項目について簡潔に説明し、あなたの考える看護上の課題を説明しなさい。

- (1) 訪問看護における看護職の役割
- (2) 在宅療養者支援における多職種連携
- (3) 地域包括ケアシステムにおける4つの‘助け’
- (4) 地域共生社会の実現

【出題の意図】

地域(在宅)看護学における重要な概念の理解と看護上の課題についての考えを問うものである。

【解答例】

(1) 訪問看護における看護職の役割

訪問看護とは、利用者が望む可能な限りにおいて居宅で、その有する能力に応じて自立した生活を営むことができるよう療養者の家庭に直接出向き、その療養生活を支援する看護活動である。訪問看護では、病院の療養環境とは異なり、在宅という資源が限られた環境での看護が求められる。そのため、利用者の状態を常に把握し、今後起こりうる変化を予測した看護を行うことが大切であると考ええる。

(2) 在宅療養者支援における多職種連携

多職種連携とは、様々な職種がそれぞれの専門性に基づいて役割を發揮し、療養者の治療や生活を支えることである。療養者の生活環境や習慣、価値観は多様であるため、異なる専門職が療養者や家族の状況、支援方針等を共有しながら協力的にかかわる必要があるが、それぞれの専門職が異なる組織に所属していることもあって、多職種連携の実践は困難を伴う。専門職間の関係構築や相互理解を深めることなどが連携・協働を推進する上で重要であると考ええる。

(3) 地域包括ケアシステムにおける4つの‘助け’

4つの助けとは、自助・互助・共助・公助を指す。自助とは、自分のことは自分ですること、互助とは地域などでの自発的な住民相互の支えあい、共助とは社会保険制度のようにリスクを共有する者同士の支えあい、公助とは福祉のような税金に拠る支えあいである。地域包括ケアシステムが効果的に機能していくためには、これら「4つの助け」が連携し、療養者の生活をバランスよく支えていくことが必要であり、療養者自身の選択と本人・家族の療養生活に対する心構えを理解し、サポートすることが看護上の課題となる。

(4) 地域共生社会の実現

地域共生社会の理念とは、制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的なコミュニティ、地域や社会を創るという考え方である。訪問看護師は、療養者や家族とかわる機会が多いため、孤立している住民の状況や家庭の中の危機的な状況にも気づきやすい。そのため制度・分野の枠にとらわれない総合的な支援体制づくりの中心的役割を果たすことができる。